

Ⅲ 大阪の顔：大阪駅前と御堂筋

近代に入ると大阪駅前と御堂筋が、大阪を代表する新しい顔となった。それまでの大阪城から延びる大川にそった東西を軸とした構造から、新たに整備された御堂筋（1937年竣工）と大阪駅（1943年竣工）による南北を軸とした構造への一大転換をはかったのだった。これらは大大阪の大玄関としてふさわしい風格を備えたものとして計画された。時を経て、JR、地下鉄3線、阪急、阪神が乗り入れる大阪駅周辺は、いまも西日本を代表する交通の要衝だ。そして大阪駅北地区には2013年春に開業したグランフロント大阪をはじめ、関西・大阪の都市再生の切り札としての役割が期待されており、その重要性はますます高まっているといえるだろう。

大阪の玄関口に相応しい駅前空間を実現しようとする構想は、大阪の都市計画の草創期からの重要テーマであった。1919年の大阪市区改正設計からその構想はスタートしている。戦前期は主に駅や街路を中心に整備が進められ、戦後は、戦前からの構想を引き継ぎつつ、道路交通対策や建築物の不燃化、不足する都市施設の充実といった課題にも対応して、1961年に制定された市街地改造法の適用を受け、大阪駅前市街地改造事業（通称ダイヤモンド地区）として実施された。複雑な権利調整を行いつつ、建築物を含む一体的な整備を行う方法で、これによって整備されたのが大阪駅前第1ビル～第4ビルであった。当初のマスタープランは東畑謙三により策定され、高層ビルの圧迫感の軽減、モータリゼーションの進展といった問題意識から、高層部のセットバックや昇降車路などが盛り込まれていた。本事業は20年を超える長期にわたる期間を経て1983年に大阪駅前第4ビルの完成に至るが、その間、何度も計画変更がなされている。既存の権利者が入居している性格上、特に地下はその店舗構成が多様で、飲食店や居酒屋、喫茶店、チケットショップ、カメラ屋、レコード店、パチンコ店などがひしめき合う独特の雰囲気を生み出している。店舗の入れ替わりも激しいなか、当時の面影を残すのが大阪万博の年、1970年に完成した大阪駅前第1ビルの地下にある喫茶店[マヅラ](#)（設計：祖川尚彦建築設計事務所）だ。未来志向あふれるデザインは、きらびやかなビル内装とあわせて、あの時代を表現している。

これからも大阪駅前周辺は時代を先取りする取組みが絶え間なく続けられ、その姿を変えていくだろう。

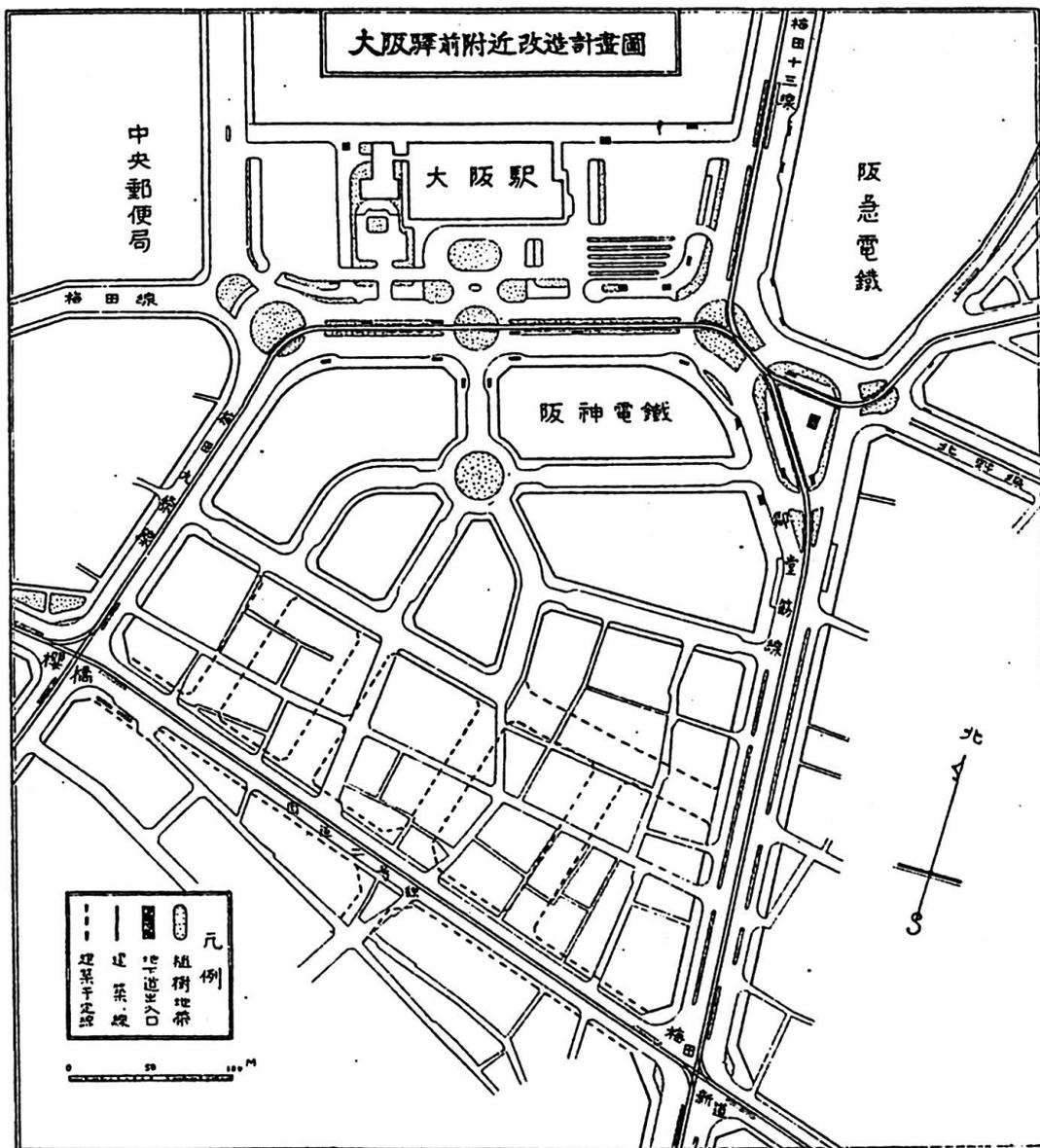


図 大阪市土木部の宮内義則による大阪駅前附近改造計画図
 (出所 宮内義則 (1940) 大阪駅前改造事業に就て, 道路, 1 卷 9 號, p86, 日本道路技術協會)



図 大阪駅前市街地改造事業当初計画パース
(出所 大阪市都市整備局 (1985) 大阪駅前市街地改造事業誌 p111)

駅としての玄関口・大阪駅に対して、大阪のまちの顔として計画されたのが御堂筋だ。第七代大阪市長関一によって計画された御堂筋は、当時としては破格の二十四間の幅をもつ四列並木の広幅員街路であった。近世から成立していた大阪の都心にこれだけの街路を拡幅整備する苦勞は並大抵ではなかったことは各種の記録に残されているが、関一や片岡安など当時の都市計画を担っていた中心人物らは、単に道をつくるだけでなく、その沿道にどのような街並みが形成されるべきかという点に深く関心を寄せていた。当時木造2階建てが主流の時代にあって、大大阪の顔として整備する御堂筋沿道には美観を添えた近代的なビルディングが林立すべきであると考え、それを実現するための敷地造成や建築規制なども綿密に検討していたことも当時の文献から確認できる。

戦前では、船場に[大阪ガスビル](#) (1933年：安井建築事務所 [安井武雄])、[日本生命保険相互会社本館](#) (1938年：長谷部竹腰建築事務所) といったオフィスビル、心齋橋・難波には百貨店建築が建ち、この大構想は徐々に形づくられていく。実は、御堂筋に鉄筋コンクリートの大規模ビルが建ち並ぶのは戦後高度経済成長期のことだ。この時代に

は時代の最先端をいく新しいビルが競うように建てられた。御堂筋は、先端技術のショーケースのような存在であった。[御堂ビル](#)（1965年：竹中工務店[岩本博之]）、[御堂筋ダイビル](#)（1964年：竹中工務店）、[本願寺津村別院「北御堂」](#)（1964年：岸田建築研究所[岸田日出刀]）など、御堂筋沿道の建築はそれぞれ個性をもちつつ、その集合体としての御堂筋の街並みを形成していった。その姿を戦前から思い浮かべていた先駆者たちの構想力には驚かされる。こうした歴史を受け継ぎつつ、先端のビジネスをリードしつづけてきた御堂筋は、これからも変化しながら時代を象徴する大阪の顔として発展していくはずだ。（嘉名光市）



写真 竣工当時の御堂筋
大阪市（1937）御堂筋竣工記念誌より